

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2024年6月分)

2024年7月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

● [大規模停電の発生\(21日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

● [屋内喫煙に係るルールの変更\(13日\)](#)

イ スルプスカ共和国(RS)

● [ドディックRS大統領の訪露\(6日～7日\)](#)

● [「全セルビア人会議」の開催\(8日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

● [第三回EU・BHハイレベル政治会合の開催\(4日\)](#)

● [南東欧協力プロセス\(SEECP\)会合の開催\(13日\)](#)

(2) 二国間関係

● [スロベニア、ポーランド、ルーマニア市民の在外投票不承認\(3日\)](#)

● [RSに対する米国の制裁\(18日\)](#)

(3) 日・BH関係

● [ヨーロッパ柔道「形」選手権大会及び講道館「柔道『形』セミナー実施」\(10～14日\)](#)

● [漫画レクチャーの開催\(25日\)](#)

3. 経済

(1) 経済指標(出典: BH統計局)

(2) 経済政策・公共事業

(3) 経済協力

(4) 民間セクター

(注: この月報は、当地紙報道などの公開情報をとりまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●大規模停電の発生(21日)

21日午後12時35分ごろ、BH国内の大部分(サラエボ、バニャ・ルカ、ゼニツァ等の都市部を含む)及びクロアチアのダルマチア地方、モンテネグロ、アルバニアの一部等で大規模な停電が発生した。停電は3時間ほど継続し、信号機の消灯等による交通渋滞が発生したほか、サラエボ市内では水道の電動ポンプの停止に伴い、夜間に至るまで長時間の断水が発生。

詳細な原因は調査中であるものの、関係機関の分析によれば、モンテネグロ・アルバニア国境での送電線の故障が直接原因とされており、夏場の気温上昇による電力消費の増加が一因とみられる。

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●屋内喫煙に係るルールの変更(13日)

BH連邦では、6月13日より公共の場での喫煙に係るルールが変更となり、電子たばこ、無煙たばこ等の定義が明確化。これまで、屋内においてはIQOS、水たばこ、電子たばこ等による喫煙はすべて許可されていたが、新規則のもとではIQOSによる喫煙は引き続き可となるものの、水たばこ及び電子たばこは不可。

また、飲食店等において喫煙席を設ける場合、入り口に「喫煙可」かつ「喫煙は健康を害する」旨注意書きを目立つように掲示し、未成年(18歳未満)立ち入り禁止の表示が必要となる。また、医療機関における喫煙スペースの設置にも、10平方メートル未満かつ施設全体の面積の20%を超えないこと、完全に密閉できること、飲食禁止といった厳格な規則が設けられる。

イ スルブスカ共和国(RS)

●ドディックRS大統領の訪露(6日～7日)

6日～7日、ドディックRS大統領はサンクトペテルブルク国際経済フォーラム参加のためロシアを訪問し、プーチン大統領と会談した。訪問中、ドディックRS大統領はロシアメディアの取材に対し、具体的なタイミングは未定ではあるが、RSのBHからの分離独立の是非を問う住民投票を今後実施する予定であると発言。

●「全セルビア人会議」の開催(8日)

8日、ベオグラードにおいて「全セルビア人会議」が開催され、RSからはドディックRS大統領、ステバンディッチRS国民議会議長、ツビヤノビッチBH大統領評議会セルビア系メンバー等が出席した。会議ではコソボの独立不承認、国境を越えたセルビア民族の文化及び利益の保護等を含む49の結論から成る「セルビア民族の民族的・政治的権利の保護及び共通の未来に関する宣言」が採択された。右には1月9日の「RSの日」をセルビアの建国記念日である2月15日に移動し、従来の祝日を「RS創設の日」とする案が含まれており、RS野党が強く反発している。

●RS選挙法及び住民投票法に係るボシュニャク系のVNI却下(25日)

25日、RS憲法裁判所は、4月18日にRS国民議会が採択したRS選挙法及びRS住民投票法につき、ボシュニャク系が申し立てていた民族的死活利益(VNI)を認定しないとの判断を下した。両法のRS国民議会での採択後、RS民族院のボシュニャク系議員団は採択の承認を拒否し、VNIを主張。これにより、RS国民議会及び民族院の合同委員会で両法に関する審議が行われたが合意に至らず、RS憲法裁判所に判断が持ち込まれたが、憲法裁

は両法ともボシュニャク系含む主要3民族、及びその他民族に対して平等な権利及び立場を保障しているとして、ボシュニャク系の主張する「VNIの侵害」にはあたらないと判断した。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●第三回EU・BHハイレベル政治会合の開催(4日)

4日、ヴァールヘイ欧州委員(近隣・拡大政策担当)はBHを訪問し、クリシュト閣僚評議会議長とともに第三回EU・BHハイレベル政治会合を主催した。ヴァールヘイ委員は高等司法検察評議会(HJPC)法、裁判所法、個人情報保護法、BH国境管理法の採択が交渉枠組みの採択のために必要である旨強調し、さらに西バルカン成長計画の枠組みでの資金提供にも言及し、2024年国家予算の迅速な採択の必要性を指摘した。

●南東欧協力プロセス(SEECP)会合の開催(13日)

13日、スコピエ(北マケドニア)において、南東欧協力プロセス(SEECP)会合が開催され、BHからはベチロビッチ大統領評議会議長及びコナコビッチ外相が出席。ベチロビッチ議長はベルリン・プロセスをはじめとした地域協力の推進とEU加盟に向けた改革の重要性を強調し、RSがBHを不安定化させていると批判。

今次会合において、西バルカン地域の経済協力推進及びEU加盟支援を行う期間である地域協力評議会(RCC)の次期事務局長にカペタノビッチ元BH外相補佐官が選出された。

●ベチロビッチBH大統領評議会議長のウクライナ復興会議出席(15日～16日)

ベチロビッチBH大統領評議会議長(ボシュニャク系メンバー)は、スイスで開催されたウク

ライナ支援に関する首脳会合に出席。BHの親露勢力であるセルビア系及びRSによりデイトン和平合意が脅かされていると指摘し、ウクライナ支援によって西バルカンの安定化を図るべきであると述べた。

●イエンチャ国連事務次長補のBH訪問(18日～19日)

18日～19日、イエンチャ国連事務次長補(欧州、中央アジア、米州担当)はBHを訪問し、コナコビッチBH外相、ドディックRS大統領、チヨービッチBH上院議長と会談。3者それぞれEU加盟に対する希望を示すと共に、国連との協力関係を高く評価した。ドディックRS大統領はスレブレニツァ決議及び上級代表の介入を批判しつつ、DV被害者の救済、女性の社会進出といった女性に関係する支援に特に言及する形で国連との協力の重要性を強調した。

●コナコビッチ外相のオーストリア訪問、地域関係会合出席(20～21日)

20日～21日、コナコビッチ外相はオーストリアを訪問し、EUドナウ地域戦略(EUSDR)外相会合及び西バルカン・フレンズ・グループ(オーストリア、クロアチア、チェコ、ギリシャ、イタリア、スロバキア、スロベニア)外相会合に出席した。コナコビッチ外相は両会合において、ロシアのウクライナ侵略による欧州の地政学的情勢の変化を受け、安全保障状の西バルカンの重要性が高まっていると指摘。迅速なEU加盟実現が必要であると強調した。

●EU・西バルカン司法大臣会合の開催(27日)

6月27日、サラエボにおいてBH司法省と当地EU代表部の共催による西バルカン・EU司法大臣会合が開催された。今次会合はEU加盟プロセスにおけるアキ第23章(司法、汚職防止及び基本的権利)をアジェンダとして開催。

クロアチア、モンテネグロ、アルバニア各国の司法大臣のほか、バジー＝マロリー・ベニス委員会委員長が出席。BH側からはクリシュト閣僚評議会議長及びブノザ司法大臣、ヘレズBH副首相兼国防相（ボシュニャク系）等が出席した。ブノザ司法大臣はEU加盟プロセスの迅速化の重要性を強調。さらに、EU加盟に向けて、BH憲法裁判所の改革及び同裁判所の外国人裁判官問題の解決がBHの優先事項であると述べた。

(2) 二国間関係

●スロベニア、ポーランド、ルーマニア市民の在外投票不承認(3日)

3日の臨時閣議においてスロベニア、ポーランド、ルーマニア市民のBHにおける在外投票の実施が審議されたが、セルビア系閣僚3名の反対で承認されなかった。反対理由は明らかではないが、BHメディアにおいては、スレブレニツァの虐殺に係る国連総会決議の採択に対する抗議であるとの見方、あるいはBH・EU関係を不安定化させ、BHのEU加盟プロセスを妨害しようとするロシアの狙いがあるとの見方もある。コナコビッチBH外相は3カ国の外相に対して書簡を発出。本件はスレブレニツァの虐殺に関する国連総会決議の採択を受けたカウンターとして、ロシアの影響下にあるセルビア系が市民の民主的権利を奪ったと批判した。

●ベチロビッチ大統領評議会議長のオランダ訪問(5日)

5日、ベチロビッチ大統領評議会議長はハーグを訪問し、ウィレム＝アレクサンダー国王、ルッテ首相、オランダ議会両院議長、ハーグ市長、EUROJUST長官とそれぞれ会談した。ベチロビッチ議長は、スレブレニツァに係る国連総会決議への支持への謝意を述べつつ、

ハーグ市における虐殺犠牲者追悼碑の建立の迅速化の必要性を指摘。また、オランダによるEUFORへの追加派兵(160名)に謝意を述べた。

●RSに対する米国の制裁(18日)

18日、米国財務省はドディックRS大統領との繋がりや資金源としての働きを理由として、RSの7企業及びセルビア市民1名、BH市民1名への経済制裁を発表。今回の制裁対象には、ドディックRS大統領と関係の深いUna TV、公共サービスのデジタル化に係る契約をBH政府と締結している Sirius 2010 社等が含まれる。

●コムシッチ大統領評議会メンバーの訪米(25日～27日)

25日～27日、コムシッチBH大統領評議会クロアチア系メンバーは訪米し、オブライエン米国務次官補と会談したほか、ボイス・オブ・アメリカ(VOA)のインタビューに答え、BHに対する米国の関与の重要性を強調。制裁によりドディックRS大統領が追い詰められているとの見方を示しつつ、RSがなにをしようとBHの解体は許さないと強調した。

(3) 日・BH関係

●ヨーロッパ柔道「形」選手権大会及び講道館「柔道『形』セミナー実施」(10～14日)

10～14日、上村春樹・講道館館長一行を迎え、サラエボ市内でヨーロッパ柔道「形」選手権及び講道館「柔道『形』セミナー」が実施された。選手権大会には、欧州21カ国から165名が出場。大会後の講道館によるセミナーにはオリンピックメダリスト等多くの柔道家が参加し、上村館長をはじめとした6名の指導員から指導を受けた。



(写真:大会及びセミナーの様子)

●漫画レクチャーの開催(25日)

25日、サラエボカルチャーセンターにおいて日本の漫画に関するレクチャーが開催された。日本からは里中満智子・日本漫画家協会理事長がオンラインで参加し、漫画の歴史と技法、及び芸術的側面等についての講義を実施した。

BH側からは当地漫画講座の講師であるパブロビッチ氏が登壇し、同氏の生徒による漫画デモンストレーションが開催された。



(写真:レクチャーの様子)

●杵渚大使の最優秀大使賞受賞(27日)

27日、サラエボにおいて、当地公益法人「最も成功したビジネスマン及び企業の選定及び表彰のための欧州独立機関」による第45回表彰式が実施され、ファヨン・スロベニア外相(最優秀閣僚賞)に続き、杵渚駐BH大使に対する最優秀大使賞の授与が行われた。

杵渚大使は受賞のスピーチにおいて、日本がこれまで民族の別なく行ってきた社会的団結の醸成及びBHの国作りに対する支援や文化交流、経済支援等に言及しながら、今後は投資及び観光分野の促進が重要である旨述べた。



(写真:授賞式の様子)

3. 経済

(1)経済指標(出典: BH統計局)

●産業生産指数

2024年4月の産業生産指数は、季節調整後数値で前月比0.9%のプラス。また、昨年同月比3.4%のプラス。

●雇用／失業率

2024年4月の失業者登録数は32万9,944人(うち女性19万4,638人)で、前月比で2.1%マイナス、前年同月比で5.6%マイナス。

●平均給与

2024年4月の平均給与(手取り)は1,374 KMで、前年同月比で10.7%のプラス。

●消費者物価指数

2024年5月の消費者物価指数は前月比で0.2%のマイナス。また、前年同月比で平均2.0%の上昇。食料品・ノンアルコール飲料の価格は前月比0.1%のマイナス。

●貿易収支

2024年1月～5月のBHからの輸出総額は66.4億KM(前年同期比8.5%減)、BHへの輸入総額は116.82億KM(前年同期比4.6%増)。貿易収支は54.2億KMの赤字。

(2)経済政策・公共事業

●サラエボ市内の新規鉄道駅建設計画(12日)

サラエボ・カントン政府は、サラエボ市近郊の5自治体(ハジチ、ノビ・グラード、イリジャ、ボゴシュチャ、イリヤシュ)に計17の鉄道駅を建設する計画を発表した。本計画はサラエボ周辺の渋滞緩和を目的とした近郊路線の整備のためのものであり、新駅の建設に加え、既存駅の補修、駅周辺の道路の整備、出入り口及び駐車場の整備等も含まれる。

**●パレーヤホリナ間ガス・パイプラインの建設
開始(19日)**

19日、パレーヤホリナ(RS)ガス・パイプライン鍬入れ式が行われた。本パイプラインは1979年に開通したBH唯一のズボルニク＝サラエボ間ガス・パイプラインの支線であり、RS政府の100%自己資金案件(総工費約750万ユーロ)。ドディックRS大統領は、本件はRSのためだけの開発プロジェクトではなく、ガスの安定供給に向けたBH連邦との協力を諦めない旨言及した。

(3)経済協力

●観光サミットの開催(6日～7日)

6日～7日、サラエボにおいて、USAIDのプロジェクト「BHにおける持続的ツーリズムの発展」の枠内で、観光分野の発展に関するパネルディスカッション等を含むサミットが開催された。USAIDの観光プロジェクトは2020年に開始し、2000万米ドル規模で5年間にわたり実施される。本プロジェクトの枠内で、USAIDは観光業従事者への研修の実施、観光分野の資金へのアクセス改善、雇用創出の支援、観光商品の開発支援等を行っている。

(4)民間セクター

●サラエボ－アテネ便等の就航(1日)

1日、エーゲ航空によるサラエボ－アテネ間の航空路線が就航し、アテネ発サラエボ着の第一便が到着した。その他、本年夏にはテッサロニキ行きの直行便が就航する。